

タブレット教育の未来を考える
—全米 No.1、メイヨークリニックに学ぶ—

開倫塾
塾長 林明夫

Q：タブレット教育とは何ですか。

A：(1)学習塾・予備校・私立学校、大学・大学院・短期大学・専門学校・専修学校など、ありとあらゆる教育機関を席卷しつつある「情報端末」を活用した教育です。
(2)学習塾・予備校では、個別指導を中心に「タブレット教育」が一気に蔓延。集団指導の対象者が激減しつつあります。
(3)この理由は、子どもたちのスマホ好き・タブレット好きに加えて、極めて高品質の教育コンテンツがタブレットを媒介として大量に出始めたためと考えます。

Q：林さんは、なぜタブレット教育を全米No.1クリニックのメイヨー・クリニックに学ぶべきと考えるのですか。

A：(1)これからの学習塾や予備校は、最先端の本格的なクリニックと酷似していると考えようになったからです。
(2)クリニックでは、病状を診断して病名を特定、最も適切な医療を選択し、治療を施し、患者に寄り添いながら回復を図ってくださいます。また、病気を予防したり、心と身体の健康を維持しながら、人生を全うする支援をしてくださいます。
(3)タブレットは、最先端の医療機器・最新の薬剤に相当すると考えます。

Q：タブレットを用いて指導する先生は、医師や医療技術者と同じと考えるのですか。

A：(1)その通りです。塾生の現状を十二分に認識しながら、「全塾生、第1志望校合格」や「全塾生、学校成績大幅アップ」、「全塾生、3大検定合格」を実現することこそ、地域 No.1 の「本格的進学塾」の使命であると考えます。
(2)この実現のために、一人ひとりの塾生にとって最もふさわしいコンテンツを選び出し、相互作用的に用いる方法を具体的に示し、塾生と併走することが、塾の先生の役割と考えます。
(3)これは、最先端医療を駆使して治療を行うクリニックの専門医・医療スタッフを連想させます。

Q：それで、全米No.1クリニックとの定評が高いメイヨー・クリニックに学ぶというのですか。

A：(1)その通りです。日本にもひたちなか総合病院のように総合的品質経営(TQM: Total Quality Management)を目指す病院があり、大いに勉強になります。
(2)日本品質管理学会の QMS-H 研究会(Quality centered Management System for

Healthcare 医療における質中心経営管理システムと導入推進のモデル開発研究会)では、数多くの事例研究が行われています。

(3)アメリカには、全米No.1といわれるメイヨー・クリニック(Mayor Clinic)があります。

Q：メイヨー・クリニックはどのような病院ですか。

A：(1)この診療所は 140 年以上前にミネソタ州の孤立した小さな町ロチェスターで開業され、1900 年代前半に「メイヨー・クリニック」と呼ばれるようになりました。

(2)①「患者への医療サービス」で知られ、

②「医学研究」と③「医学教育」が患者ケアを徹底的に補う。

(3)この 3 つからなるミッションを定めたのがメイヨー兄弟こと、ウィリアムとチャーチルズ・メイヨー両医師です。

(4)特に医学教育は充実。「メイヨー医科大学」「メイヨー大学院」「メイヨー卒業後医科教育学校」「メイヨー医療学校」「メイヨー医学生涯教育学校」などを整備。

(5)メイヨー・クリニックの医師と科学者たちは、「医学研究」を患者の治療、診断のツール、技術の改善に活用。ノーベル賞受賞者も出しています。

Q：メイヨー・クリニックについては、どのように勉強すればよいのですか。

A：(1)全米 No.1 のメイヨー・クリニックを紹介した本がようやく出版されました。レナード・L.ベリー、ケント・D.セルトマン著、近藤隆文訳の「全米 No.1 クリニックが教える最強のマネジメント」アチーブメント株式会社 2018 年 10 月 7 日刊です。

(2)原著は、2008 年に出た「Management Lessons from Mayo Clinic : Inside One of the World's Most Admired Service Organizations」by Leonard L. Berry, Kent D . Seltman です。10 年目にしてようやく出た日本語訳です。

(3)ぜひ、学習塾・予備校・私立学校の先生方も手に取って御一読頂き、すでに到来してしまった「タブレット教育」の未来を、皆様とともにお考え頂きたいとお願いたします。

全米 No.1 のメイヨー・クリニックの患者本位の最強のマネジメントは、すべての教育サービス機関の経営に必ずお役に立つと確信するからです。

(4)医学部・薬学部など医療・介護系に進学する塾生が一人でもいたら、本書を通して、メイヨー・クリニックから「患者第1」とは何か、「あるべき医療」とは何かを学んで頂きたいと存じます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：「全米 No.1 クリニックが教える最強のマネジメント」の他に、今月もお読みになれば必ず先生方の参考になる本を御紹介させていただきます。

(1)1 冊目は、P・フルキエ著「公民の倫理」筑摩書房 1977 年 9 月 25 日刊です。フランスのリセ(高等学校)最終学年の哲学の教科書である、P・フルキエ著、中村雄二郎訳「哲学講義 I～IV」ちくま学芸文庫、筑摩書房 1977 年 2 月 10 日刊の中学生版の本書こそ、日本の学習塾の先生方が熟読玩味すべき本です。

(2)2 冊目は、岩橋文吉著「人はなぜ勉強するのか、千秋の人、吉田松陰」モラロジー研究所 2002

年6月10日刊です。

- (3)3冊目は、小久保明浩著「塾の水脈」武蔵野美術大学出版局 2004年4月1日刊です。江戸時代から戦前までを、「塾」を中心にまとめられた貴重な歴史書。戦後の島本正先生による時習塾までカバー。
- (4)4冊目は、ペガサスクラブ主宰者、渥美俊一著「外食業『王道』の経営、(上)(下)」柴田書店 2003年3月10日刊です。上巻は「規模拡大のための経営戦略篇」、下巻は「現場の技術を高めるノウハウ篇」。同著「チェーンストア、組織の基本、成長軌道を切り開く『上手な分業』の仕方」ダイヤモンド社 2008年11月28日刊と併読することで、「プロセスの標準化」の意味がよくわかります。「クリニック」と同様、「外食業」を学習塾・予備校・私立学校と読み替えると、驚くほど新しい発見・学びがあります。ぜひ、御挑戦を。
- (5)5冊目は、守屋淳著「最高の戦略教科書 孫子」日本経済新聞出版社 2014年1月24日刊です。わかりやすさ No.1の「孫子」の最新のテキスト。
- (6)6冊目は、吉川洋著「デフレーション、日本の慢性病の全貌(ぜんぼう)を解明する」日本経済新聞出版社 2013年1月18日刊です。同著「高度成長、日本を変えた6000日」読売新聞社 1997年4月9日刊に引き続きお読みになることをお勧めします。米中関係の影響でデフレはまだまだ続きそうです。

吉川先生の最新刊は、「人口と日本経済」中公新書 2016年刊です。

- (7)最後に、異文化教育を行う上で不可欠な宗教社会学に御興味のある先生方には、小室直樹著「日本人のための宗教原論」徳間書店 2000年6月20日刊と、同著「日本人のためのイスラム原論」集英社インターナショナル 2002年3月3日刊の2冊を、一気にお読みになることをお勧めいたします。

その後、同著「小室直樹経済ゼミナール、資本主義のための革新(イノベーション)」日経BP社 2000年11月1日刊をお読みになると、マックス・ウェーバー著、大塚久雄訳「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」岩波文庫、岩波書店刊がよくわかります。

- (8)少し片寄ってもOKですから、分野・分野(ジャンルジャンル)でこれぞという著者・作家の代表的な著作・作品を、多少難しいと思っても歯を食いしばって何回か通読すると、霧が一気に晴れたようにくっきりと見えてくることがあります。いくつかの分野で、これと決めたら、深く狭くに徹した読書をおすすめします。まずは、1日でも早く、筆者の「足元」に近づくことです。一点突破・全面展開で、1つに絞り込むのもいいですが、3つから7つくらいの分野を追い求めることができれば、自分なりのバランスのとれた生き方ができるのではないかと考えます。著作だけでなく、参考になる国や地域、企業や団体、クリニック、学習塾についても、同様の取り組みをなさることです。ぜひ、御挑戦を。

2019年3月6日 林 明夫記

筆者プロフィール

- ・開倫塾 塾長
- ・公益社団法人経済同友会 幹事(東京)